国 際 会 議 報 告

第 14 回国際産業用ロボットシンポジウム (The 14th International Symposium on Industrial Robots)

主 催：Sveriges Mekanförbund, Sweden

日 時：1984 年 10 月 2 日～4 日

会 場：スウェーデン イエテボリ市産業見本市会場併
設国際会議場

参加者：約 1,100 名

主要参加国：日本、スウェーデン、米国、イギリス、フ
ランス、ドイツ、イタリア、スイス、オランダ、
ベルギー、オーストラリア等、約 30 カ国

セッション数と論文数：22 セッション、論文数 69 件
(日本 10 件)

Proceedings 発行所：IFS (Publications) Ltd. and
North-Holland

展 示：約 200 社

このシンポジウムは、産業用ロボットの国際会議では
もっとも長い歴史を有し、かつ大規模な本格的シンポジ
ウムである。

毎年 1 回、日本→ヨーロッパ→米国→ヨーロッパと開
催地を移しており、今回の第 14 回シンポジウムはスカ
ンジナビア半島ではじめて開催された、歴史上最大規模
のオートメーション関係の国際会議であった。その故か
スウェーデンでは国を挙げて歓迎に努め、国王が式典に
参加し、記念切手を出すなどの記念行事が行われた。

シンポジウムは国際会議場とロボットの展示場が一体

となった非常に便利な場所で行われ、開催地イエテボリ
市長主催の歓迎レセプションも同一会場で行われるほど
立派な施設であった。

開会基調講演と最終の合同セッションの他は、隣接す
る 2 室を用いて平行にセッションがすすめられた。セッ
ション構成は前回の米国、前々回のフランスの場合に比
べてアクの強さがなく、バランスのとれた気配りの利い
たものであった。

内容的には、視覚センサが実用期に達したとの印象を
受け、組立の論文が充実し、ロボット化システムの論文
が目立った。ダイレクトドライブ方式の発表に関心が集
まり、オフラインティーチングの研究が発表された。人
間とのインターフェイスや安全問題について多くの論文
が出され、中でも教育・訓練の問題については、別に設
定された教育・訓練フォーラムの分も併せて多数の発表
が行われ、この問題への欧米諸国の関心の深さを示し
た。

その反面、ロボットの適用事例紹介では、その広がり
と深さの双方で日本の優位が強く印象付けられた。シン
ポジウム終了の翌日には、参加者のほとんど大部分がボ
ルボ社本社工場の見学に招待された。ポストシンポジウ
ムツアーでは各社の最新のロボットと適用例が紹介され、
スウェーデン独得の、ロボットをより人間に近い使い方
で用いる方式が目新しく感ぜられた。

(長谷川幸男 (Yukio HASEGAWA) 早稲田大学)